



経済産業・企業と政策に関する理論・実証研究

生活環境科学系・生活文化学領域

安橋 正人

准教授

AMBASHI Masahito

Ph.D in Economics(エセックス大学)

■研究キーワード ミクロ経済学／産業組織論／イノベーション／開発経済学／国際関係

■主な所属学会 American Economic Association／East Asia Economic Association／日本経済学会／日本国際経済学会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.7c98d9a1ff7e53bd520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

中央官庁や国際機関での勤務経験を活かし、「より良い生活と社会を構築するための経済学」の研究を目指して、常に現実の経済社会や生活との接点を意識した研究を行ってきました。こうした問題意識から

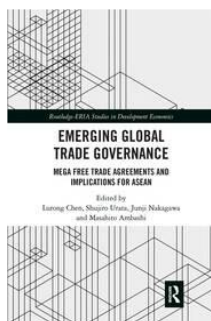
(1) アカデミ的な関心に基づいた経済問題の理論・実証研究
(2) 日本やアジアでのフィールドに基づいた学際融合・政策研究
という2つの研究サイクルで活動しています。ライフワークをともなったこのサイクルを強化するために、革新的研究を一層積み重ねるとともに、国海外の様々な分野の研究者と共に、現場で研究を行うことに尽力しています。

①経済学の理論・実証研究

- 特許などの知的財産権制度の下でのイノベーション理論
- 大学における研究・教育活動とイノベーション
- 企業の社会的責任 (CSR) と経済パフォーマンス

②フィールドでの学際融合・政策研究

- 日本の東南アジアにおける国際産業政策の展開
- 東南アジアの気候変動・エネルギー問題
- 文化と経済・産業・企業の発展



海外の共同研究者と出版した書籍



インドネシア大学人文学部を訪問

研究のプロセス・研究事例

(1) イノベーションは、経済社会を発展させる原動力です。個々の企業が生み出すイノベーションは、厳しい市場競争を勝ち抜くことがモチベーションになります。他方で、イノベーションには、特許などの知的財産権を通じたインセンティブの付与も重要です。企業間のイノベーション競争がある中で、特許も含めたどのような技術開発に関する制度が社会的に望ましくなるかをミクロ経済学の理論で分析しています。その他に、大学における研究・教育活動がどうイノベーションと結びついているかを理論モデル化し、それをデータで実証的に明らかにする研究にも取り組んでいます。近年注目されている企業の社会的責任(CSR)も、イノベーションをはじめとした経済パフォーマンスと関係しており、両者の関係を企業データで分析しています。

(2) 私がフィールドとする東南アジアを題材として、経済学以外の国際関係論や言語学なども含む学際融合的な手法で、主に政策研究を行っています。日本の東南アジアにおける国際産業政策に関する研究では、日本の国会会議録テキストを機械学習の手法を用いて分析しています。東南アジアの気候変動・エネルギー問題についても、アセアン・エネルギー大臣会合のステートメント文書をテキスト・アナリティクスで数量的な把握を行う研究とともに、現地の環境企業家の実態調査を行うなどしています。



共起ネットワークによる分析

本学に着任以降は、学生の卒業研究指導を通じて新しい経済学の研究分野を開拓しています。その一つが文化経済学という文化芸術学と経済学の融合で、文化を通じた経済・産業・企業の発展を検討しています。